

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 青い鳥会

【総 括】

令和5年11月に彦根学園で発生した虐待事案を受けて、虐待防止委員会・支援向上委員会を中心に権利擁護意識の向上と虐待事案再発防止に法人全体で取り組みを強化してきたが、7月11日に身体的虐待事案が発生した。事案発生後虐待防止委員会を中心に、権利擁護意識の向上、虐待事案再発防止に法人全体で取り組んだ。法人職員一人ひとりが福祉人としての倫理観を高く持ち、自身の仕事に真摯に向き合う事で、次年度以降、法人を利用する利用者、ご家族、その他多くの関係者からの信頼回復を目指したい。

令和6年度は法人組織の改革に取り組んだ。法人本部会議を立ち上げ、法人運営についての議論を行うと同時に、コンサルティング会社である(株)日本経営の協力を得て、「法人の目指す将来像と職員一人ひとりが日々の業務を行う上での指針、道標となるもの」として、ビジョン・ミッション・バリューを作成した。また、そのビジョン達成に向けて人事制度の再構築のために「人事制度グランドデザイン」作成に取り組んだ。このグランドデザインを基に、次年度は新たな人事制度策定に取り組む。

利用者の暮らしについては、コロナ禍前の生活様式への復帰を目指し、サービス提供については事業所毎に基準を設けることで、感染症による事業所の閉所はせずに安定したサービス提供ができた。彦根学園においては、外出行事やよさこい、吹奏楽団の鑑賞の機会の提供等、外部との交流の機会を増やす事や、日々の生活の活性化ができた。

人材確保や定着がますます困難になりつつある現状において、ICTの導入を積極的に行い、職員の業務効率化を図った。ICT導入は入所施設である彦根学園を主として、施設全館にWi-Fiを完備し、インカム、眠りスキャン、眠りスキャンeye等を導入した。ICT導入に並行して、介護ベッドの導入、介護ロボットの試用を重ね、業務効率化とともに、職員の労働環境の改善にも取り組んだ。今後、人材確保がますます困難になる事を想定し、法人で働く人材を大切に、今後もICT、介護ロボット等の導入を推進していく。

人材確保が困難な状況に加え、地域ニーズのマッチング、圏域の障害福祉サービスの充足状況を鑑みた結果、愛荘町川原事業所の「放課後等デイサービスか～む」を3月末で閉所した。今後、社会福祉法人として、地域課題を見ながら適切な事業展開を行っていきたい。

【法人】

(1) 評議員会および理事会について

評議員会及び理事会による適正な法人経営を行った。

評議員7名、理事6名、監事2名、および評議員選任・解任委員3名

監事監査

	開催日	議案事項
監事監査	5/17	滋賀県の監査項目の沿った法人運営についての監査

理事会

	開催日	議案事項
第1回理事会	5/31	令和5年度事業報告及び決算報告 他
第2回理事会 (緊急招集)	7/16	彦根学園で発生した虐待事案について
第3回理事会	7/30	キュービクル更新工事請負契約及び第1次補正予算 他
第4回理事会	11/21	第2次補正予算「放課後等デイサービスか～む」について 他
第5回理事会	1/30	就業規則等に関する規程の一部変更 他
第6回理事会	3/11	令和6年度補正予算、令和7年度当初予算 他

評議員会

	開催日	議案事項
定時評議員会	6/17	令和5年度決算書類等の承認、監事の選任・解任 他
第2回評議員会	8/21	彦根学園で発生した虐待事案について 他

評議員選任解任委員会

	開催日	議案事項
評議員選任解任委員会	5/17	馬場評議員の解任及び評議員1名の選任

(2) 事業運営の透明性の確保

- 法人機関紙「すたあとらいん」、ホームページ及びワムネットに事業活動および決算状況等を掲載による事業運営、および経営状況の透明化

(3) 地域における公益的な取り組み

- 地域ニーズへの取り組み
高宮町社協主催の独居老人宅への配食事業への協力（月に一度）
気候変動適応法に基づく指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）に係る協定の締結（彦根学園）

・福祉人材の養成

保育士や介護福祉士等の養成施設として、実習生の受入。法人各事業所にて12名の受入れを実施
彦根市民生児童委員協議会研修へ講師派遣（てんしん主任相談支援専門員）

県内10組織体の養成研修において、法人職員を講師として派遣

・障害者への理解促進、啓発

彦根学園祭（10/4）開催

愛荘町川原事業所秋祭り（11/4）開催

街かどアート展への出展及び職員派遣

(4) 組織運営について

- 今年度より法人本部会議を立ち上げ、運営についての協議を行った。
協議の中では、会計拠点毎の事業活動収支差額の黒字化を目指とした意識強化を行い、各事業所の運営状況の確認を行った。

構成員：業務執行理事、施設長、副施設長、総務部長、地域福祉部長、施設福祉部長

開催日	協議内容
4/4	・規程の変更について・県特別監査後の対応、報告について・「か～む」の運営について 他
5/10	・「か～む」の今後について・滋賀県指導監査に向けて 他
6/6	・人事考課について・人事について 他
7/4	・滋賀県指導監査について・人事について 他
8/1	・虐待事案経過報告・感染症対策について・キュービクル更新工事について
9/9	・R8 盲重複研全国大会について・工事に関する検討・マイナンバーカードについて 他
10/3	・R8 盲重複研全国大会について・工事関係確認 他
11/7	・愛荘町川原事業所について・「か～む」廃止にあたっての今後の確認 他
12/4	・第4回理事会報告・資格手当について・R7年度各事業所の計画等について 他
1/9	・県指導監査、運営指導報告・地域連携推進会議について 他
2/6	・第5回理事会報告・彦根学園クラスター感染について・工事関係について 他
3/6	・服務規律について 他

(5) 人材の確保について

青い鳥会に限らず、介護・障害福祉関連事業所は人材確保が大きな課題となっており、青い鳥会では令和6年度採用者数9名となっている。将来、法人を担っていく存在を途ださない為にもとりわけ20代職員の採用が課題である。

(取り組み状況)

- ・職場説明会において、参加者の目に留まるようブース装飾の工夫
- ・人材確保を主な目的としたSNS活動（インスタグラム等）
- ・実習生や旧職員への働きかけ
- ・奨学金代理返還制度の運用（対象者1名）
- ・令和7年4月1日時点 正職員75名、准職員29名、パートナー職員18名、合計122名

(6) 人材の定着と育成について

- ・職員の仕事と育児介護などの家庭生活の両立を図るため、雇用環境や労働形態を整備し、その結果、育児休業等取得率男女共100%の達成が継続できた。産休・育休ガイドブックの作成、配布・男性育休取得者の面談を実施し、一般事業主行動計画の目標が達成できた。

・賃金のベースアップ

処遇改善加算（I）の取得によるベースアップを行い、職員の賃金改善に取り組んだ。

・業務負担の軽減について

ICTの導入による業務の効率化。介護機器の導入による身体的負担の軽減

(7) 施設管理、機能強化

- ・キュービクル式高圧受電設備の老朽化に伴い更新工事を実施した。実施においては、以下の補助金を申請し、年度内に工事が完了できた。

工事期間：令和6年8月20日～令和7年3月10日

設計監理：株式会社 湖北設計

施 工：共同電気株式会社

補 助 金：民間心身障害児者社会福祉設備費補助金 107,683,000円

彦根市障害者社会福祉施設設備事業費補助金 4,997,531円

【各事業所共通事項】

(1) 虐待防止・権利擁護への取り組み

7月に彦根学園男子寮で身体的虐待事案が発生している。再発防止対策として、毎月外部委員のびわこ学院大学鳥野教授を含めた虐待防止委員会を開き、再発防止の取り組みの検証と今後の対応の検討を実施している。また、虐待防止研修を毎月実施し、職員の福祉人としての倫理観と権利擁護意識の向上を図り、再発防止に繋げた。

・虐待防止委員会・身体拘束委員会について

年間12回開催（外部委員として鳥野教授出席）会議後、全職員に会議内容を周知した。

・虐待防止研修について・・・年間9回実施

開催日	研修テーマ	講師	参加者
7/24 8/26	なぜ、虐待はなくならないのか? 虐待が発生した場合の影響	びわこ学院大学 烏野教授	61名
9/25 10/16	事例を通して考えよう (グループワーク研修)	地域福祉部長 吉井氏	64名
11/29 12/12	福祉現場で働く人の倫理について (階層別研修 副主任以上)	大津市基幹相談調整センター 主任相談支援専門員 松岡氏	55名
1/10	「滋賀県障害者虐待防止・権利擁護研修」復命研修	地域福祉課長 古谷氏	28名
1/15 2/26	意思決定支援と権利擁護	主任相談支援専門員 廣田氏 くすのき寮主任 廣田氏	56名

・外部の虐待防止研修への派遣

滋賀県主催、圏域市町主催等 6つの研修に13名を派遣

・支援向上委員会を中心にポスターによる啓発活動や虐待の芽チェック、セルフチェック等の実施 各種会議において、日々の支援の振り返り及び検証

(2) 個別支援計画の作成及びサービス管理会議の開催

・各事業所で、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者を中心に、利用者の思いや一人ひとりのニーズに合った個別支援計画を策定。年2回のモニタリング会議で計画遂行状況や支援の効果・結果を検証し、利用者のより豊かな暮らしの実現を目指した支援を実施

(3) 利用者（児）の意思の尊重

・個別支援会議において担当者（サービス管理責任者）による意思決定支援の実施（原則本人参加） ・日々の支援における意思表出のサポートと傾聴 ・食事や活動、余暇等の中で選択する機会の提供

(4) 職員研修の実施

・職員の知識および技術の向上を目指して、年9回の法人内研修の実施と県社協等外部研修への参加。 また、eラーニングによる研修として、スペシャルラーニングを活用した研修の実施

《法人内研修》

開催日	研修テーマ	講師	参加人数
4/24	応急手当講習	応急手当普及員重森氏・小川氏	28名
5/24	排せつケア（オムツのあて方等）	ユニ・チャーム（株）西野氏	14名
6/26	人権・ハラスメント研修	彦根市人権政策課 米田氏	27名
7/12	排せつケア（オムツのあて方等）	ユニ・チャーム（株）西野氏	20名
9/13	感染対策の基本	感染認定看護師 淡野氏	28名
11/25	BCP（業務継続計画）研修	びわこ学院大学 烏野教授	21名
1/22	BCP（業務継続計画）研修	びわこ学院大学 烏野教授	26名
2/14	ケース検討会		27名
3/19	感染症研修（吐物の処理方法）	看護主任和田氏	29名

《法人外研修》

滋賀県社協主催 階層別研修（新任期 中堅期 チームリーダー 管理職等）

滋賀県主催 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修 実践研修）

滋賀県主催 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（実践研修 更新研修）

全国盲重複障害者福祉施設研究大会および職員研修会

全国重症心身障害日中支援協議会全国大会

その他、滋賀経営協主催、滋賀県主催の研修に参加

（5）関係機関との連携

- ・行政、相談支援事業所、他事業所、圏域の自立支援協議会との連携
- ・地域生活支援拠点運営会議への参画

（6）ICT等の導入による業務の効率化

- ・インカム、眠りスキャン、眠りスキャン eye、介護ベッド

インカムの導入後、夜勤始まりにその日の夜間責任者が利用者情報の共有を実施することで夜勤者同士が連絡を取りやすく、何かあった場合にはすぐに連絡を取れる環境となり、夜勤者の精神的な負担の軽減に繋がった。日中においても職員間の連携、情報共有がスムーズになった。

- ・リフターの増強（河本福祉文教財団より寄付）

リフター、介護ベッドの導入については、利用者、職員双方の身体的負担の軽減に繋がっており、今後必要な介護機器やICTの導入を行い、業務の効率化、身体的負担の軽減に繋げていく。

【彦根学園】

彦根学園を利用する誰もが「元気で、明るく、楽しく、穏やかな生活を主体的に過ごす」ことを目標に活動した。外出行事をはじめとした外出機会の増加やよさこいの鑑賞など外部交流を活性化する事ができた。利用者の60%が50歳以上となり、身体的介護が必要な方が増加している。利用者、職員双方の負担軽減を目指し「抱え上げない介護」実践研修修了事業所認定取得に取り組み、無事取得する事ができた。また、インカム、眠りスキャン、眠りスキャン eye等の導入も、夜勤者の業務軽減や心理的負担の軽減に繋がった。今後も継続して必要なICTや介護機器を導入し、利用者の負担と職員の業務改善に繋げていきたい。

(1) 入退所者および現員

- ・入所者 1名 (9/1 男性)
- ・退所者 2名 (1/15 女性 2/28 女性)
- ・4月当初現員 101名 → 3月末現員 100名

(2) 利用者の暮らし

- ・利用者一人ひとりの強みを活かした日中活動の提供
- ・身体状況に合わせた時間割スケジュールでの日課（日中活動）の提供
- ・多職種の連携による、身体状況に合った運動、食事等の提供
- ・園外行事の積極的な実施（利用者の社会参加機会の確保）
- ・国スポ、障スポ、両開会式ウエルカムフェスタ「シャイン!!」参加

(3) 健康管理について

- ・健診、予防接種等の実施

5/16 利用者健康診断 5/23 40歳以上胸部レントゲン 11/14 歯科検診

11/13 コロナワクチン接種 10/10 インフルエンザワクチン接種

毎月 内科検診（協力医往診）精神科検診（協力医往診）

- ・1ケア1消毒の推進

感染症対策委員会を中心に1ケア1消毒を推進し感染予防に努めた。

(4) 高齢化対応について

- ・6ヶ月毎の個別支援会議で、看護師、管理栄養士、支援員等の多職種によって利用者の状態に相応しい援助内容を検討
- ・栄養ケア計画に基づいた食事の提供の実施
- ・理学療法士によるリハビリの実施と助言に基づいた体動かし、歩行等運動の実施
- ・「抱えあげない介護」実践研修修了事業所認定取得

(5) クラスター感染について

感染症対策委員会を中心に冬季のクラスター感染に対して検証を行い、必要な対策を講じる事で今後の感染予防に繋げる。

- ・新型コロナウィルス

7月～8月 11名罹患（利用者8名、職員3名） 1月～2月 73名罹患（利用者55名、職員18名）

- ・インフルエンザA型

12月～1月 61名罹患（利用者54名、職員7名）

(6) 年間行事

4月	新任式	5月	GW行事・物故者追悼式	6月	運動会・よさこい鑑賞
7月	七夕行事	8月	納涼祭	9月	グループ外出
10月	第51回彦根学園祭 知ハン協体育大会	11月	グループ外出 知ハン協文化の集い	12月	クリスマス会・忘年会
1月		2月	グループ外出	3月	退任式

【せいふう】

4月当初の契約者人数は23名（男性15名 女性8名）。令和7年3月に養護学校を卒業された男性1名（週2日利用）と契約している。年度途中に2名ご逝去、1名が他施設へ入所され6年度末の契約者数は21名となっている。他の生活介護事業所等と併用利用される利用者が増加傾向となっている。

（生活介護）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者計	344	344	272	355	290	306	336	309	308	302	256	305	3,727
開所日数	24	25	21	25	21	23	24	23	22	22	22	20	272
平均数	14.3	13.7	12.9	14.2	13.8	13.3	14.0	13.4	14.0	13.7	11.6	15.2	13.7
平均利用者数		13.7人/日				平均障害支援区分			6.0				

（短期入所）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者計	6	6	4	6	4	6	6	6	6	6	6	4	68
開所日数	4	4	4	4	2	4	4	4	4	4	4	2	44
平均利用者数		1.6人/日				平均障害支援区分			6.0				

（1）利用者の過しの充実

- ・個別的プログラムとして重症心身障害者特有の側弯等へのアプローチの実施（月・金 午前）
- ・集団プログラムとしてアクト（ボッチャ）、創作（粘土・紙漉き・マーブリング等）、音楽活動の提供
- ・アロマテラピーやリラクゼーション等の静的な活動を提供
- ・外出行事（小グループ）提供
- ・ボッチャを通して彦根学園との交流の実施
- ・利用者が参加できない個別支援会議において、本人の意思を聞き取る工夫の実施
- ・リフターやフレックスボード等使用したノーリフトケアの徹底による安楽な移乗の提供
- ・寝台浴の更新

（2）健康管理について

- ・隔月の定期健診の実施（嘱託医往診）、及び複数看護師による適切な健康管理
- ・びわこ学園作業療法士の助言に基づいた食事形態の見直し

（3）利用家族の養育機能低下への対応

- ・短期入所 月に2回・1泊2日で2名の受け入れを実施

（4）年間行事

4月	友を迎える会	5月	GW 行事	6月	
7月	七夕行事	8月	夏祭り	9月	総合防災訓練 職員健診
10月	運動会	11月	文化の集い	12月	クリスマス会
1月	成人を祝う集い	2月	節分行事	3月	振り返りの集い

【愛荘町川原事業所】

「つながり」をキーワードに、「①利用者とのつながり」「②家族とのつながり」「③地域とのつながり」を大切にした事業を実施した。放課後等デイサービスか～むでは、土曜日を閉所し、週6日の開所から月曜日～金曜日の週5日の開所に変更している。生活介護事業所すら～ぶでは、重度障害の方の受け入れを積極的に行った。

また、平成29年に愛荘町より依頼を受け始めた、「放課後等デイサービスか～む」については、多くの新規参入により湖東圏域で30ヶ所を超える事業所数となり、地域ニーズ、地域課題が解決しつつあり、社会福祉法人としての役割を果たせたと判断できる事や、職員確保においても難しい状況とある事から、令和6年度末で「放課後等デイサービスか～む」を閉所した。

(1) 地域との繋がり強化について

- ・11/4 「第2回か～む・すら～ぶ秋祭り」を開催

(2) 施設管理等の協議について

- ・建屋が築40年を過ぎている為、改修、修繕が必要な際には隨時愛荘町との協議を実施した。

空調設備が老朽化しており協議を行った。令和7年度は愛荘町で空調設備改修費が予算化され改修予定となっている。

(3) 健康管理について

- ・日々の健康状態について、家庭との連携を密に図りこまめな観察と連絡、相談の実施
- ・てんかん発作など緊急時の対応についての確認と職員間での周知徹底
- ・家族、支援員、看護師、理学療法士等の連携による適切な健康管理

放課後等デイサービス「か～む」

障害のある児童が心地よく安心して過ごせる場として、一人ひとりの個性と発達に応じた支援の提供を行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用児計	130	114	106	118	141	92	81	87	86	82	72	86	1,195
開所日数	22	23	20	23	20	21	23	20	20	20	20	21	253
平均数	5.9	4.9	5.3	5.1	7.0	4.3	3.5	4.3	4.3	4.1	3.6	4.0	4.72
平均利用児数		4.72人/日											

利用児の過し、日々の提供活動

- ・歩行運動、創作活動、ドライブ等の活動の実施

生活介護事業所「すら～ぶ」

重度の障害のある人が安全で安心できる活動の場を提供し、障害の状況や特性に応じた支援の提供を行った

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者計	294	299	260	304	248	265	294	245	235	221	202	209	3076
開所日数	22	23	20	23	20	21	23	20	20	20	20	21	253
平均数	13.3	13.0	13.0	13.2	12.4	12.6	12.7	12.2	11.7	11.0	10.1	9.9	12.2
平均利用者数		12.2人/日					平均障害支援区分				5.6		

(1) 利用者の過し、日々の提供活動

- ・歩行運動、リハビリ、作業活動、リラクゼーションなど豊富な療育活動の実施
- ・ドライブ等の余暇支援の実施

(2) 年間行事

4月	お花見	5月	グループ外出・健康診断	6月	グループ外出・防災訓練
7月	グループ外出	8月	バスドライブ	9月	グループ外出
10月	BBQ 大会	11月	第2回か～む・すら～ぶ秋まつり	12月	クリスマス会・防災訓練
1月	初詣	2月	節分行事	3月	1年を振り返る会

【地域支援センターたいせい】

相談支援事業所 てんしん

相談支援専門員4名を配置し、計画相談（児・者）・一般相談・委託相談事業を行った。

(1) 計画相談件数

- ・契約者数334名（彦根学園利用者99名含む）のうち、障害者236名、障害児98名
- ・新規受入れが19名に対し、終了したケースが7名。更新とモニタリング合わせた対応実績数936件
- ・月平均78件（前年度より+3.1件）、相談員支援専門員一人平均19.5件／月（前年度より+0.8件）

(2) 委託相談対応件数

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
彦根市	357	25	55	219	6	50	0	2
愛荘町	97	13	29	37	6	11	0	1
甲良町	31	6	22	1	0	2	0	1
豊郷町	17	3	5	7	2	0	0	0
多賀町	11	1	1	7	0	2	0	0

- ・合計件数1,492件の実施。福祉サービスの利用が無い方の生活相談（近隣トラブル、借金問題、申請に係る手続き、災害時個別避難計画作成に関する相談等）を委託相談で対応した。

(3) 障害支援区分調査の委託

- ・各市町より委託を受け、47件の障害支援区分調査を実施

(4) 湖東地域障害者自立支援協議会・その他の会議・研修への参加について

- ・滋賀県内で開催された約20の組織体の会議に4名の相談員支援専門員が分担し参加
- ・滋賀県内で開催された約10の組織体の研修に講師・ファシリテーターとして派遣

グループホームたちばな

年度当初より、今年度中の定員満床を目指した運営を行い、体験利用等を積極的に行った結果、4月・6月・1月に1名ずつが入居され、定員15名が満床となった。

(1) 食事提供について

- ・栄養管理、食事の準備と提供、食堂・台所・食器類の衛生管理、食材費の適切な使用

(2) 健康に関する支援について

- ・服薬管理、受診手続き、相談助言、受診の同行、朝夕の健康観察、規則正しい生活の支援
- ・清潔についての助言や支援

(3) 日常生活に関する支援について

- ・福祉サービス事業所、職場、人間関係についての助言や支援

(4) 余暇活動に関する支援について

- ・外出についての助言、移動支援事業所や行動援護事業所との連絡調整
- ・12月に、利用者同士の交流の場、ご家族との談話、会議室としての活用を目的に大倉庫を多目的室とする改修工事を実施

(5) 緊急時の対応

- ・避難訓練、BCP訓練の実施。災害時を想定した食事提供を実施
- ・防犯対策として、防犯カメラの設置